

10
OCT 2021
VOL.144

心と心をビビビと結ぶコミュニケーションのお手伝いペーパー

ishin-déns hin

Let's コミュニケート!
持ってる武器が弱い

きおく画伯
おしえてあげないよ♪

社長と行こう! こっそり食堂
うみまちラーメン



水野印刷工芸
社内報

ミデコの日々の取り組みを
知っていただくため、
社外にもお配りして
います。

みかわんこ▶



特集

映画エキストラ 潜入レポート in 蒲郡

特集

人生初！

映画エキストラ 潜入レポート in 蒲郡

我らがM社長から「映画のエキストラに出てみないか」と声を掛けられたのはたしか今年の8月に入って間もない頃だと記憶している。こう見えて実はこの10年間で東京キー局の情報バラエティ番組に3度ほど出演（幸運にも映り込んだものもあり）できたことはちょっとした自慢もあるが、映画はもっぱら観るばかりで出演するなどということは考えたことすらなかった。

「〇〇〇〇が多分、来ると思うけど…」この一言が大きく運命を変えることになる。空耳でなければ、現在ドラマ・映画で大活躍中の誰もがその名を知っているであ

ろう日本を代表する超有名実力派俳優が蒲郡にやって来る！そして私、OK内が好きな俳優ベスト3に入っている方！興奮と激しい胸の鼓動で思わず息を失いかねながらも「ぜひ、お願いしますっ！」〇〇〇〇さんを至近距離で見られるなら、どんな役でもいい。おそらくこれが人生最初で最後のビッグチャンス。ミーハーの意地と誇りにかけて責務を全うするのみっ！

(注意) この映画は2022年夏公開予定のため、守秘義務で役者さんの名前や撮影場所、撮影シーンなどは伏せてあります。今は想像しながらお楽しみいただければ幸いです。

髪もセットしてもらい準備が整ったところでいざ撮影現場へ。そこには憧れの超有名実力派俳優さんをはじめ、ドラマや映画などで一度は見たことのある面々がズラリと並んでいる。そしてこれまた見たことのないほど大勢のスタッフ、さらに鈴木寿明蒲郡市長はじめ関係者の方々を目の前にすると緊張感が一気に高まっていく。よくある役者の紹介が一通り終わるといよいよ撮影がスタート。段取りの説明を受け、リハーサル、本番へと進んでいく。今回

の見どころは超有名実力派俳優さんが最後にちょっとしたキレ方をするシーン。セリフは無くてもその立ち振る舞いには思わず見とれてしまうほど迫力がある。我々エキストラに課された演技は敬礼とやる気のない拍手、そして自席に戻ること。セリフはもちろん無い。おそらく実際の映画では数十秒程度のシーンをリハーサルから本番、しかもカメラの位置を細かく変えたり、コマ切れに分割したりしながら何度も繰り返し撮影していく。敬礼については元刑事の警察監修の

方の指導のもと何度も練習をした。警察の敬礼とは右手をこめかみ辺りにかざすものだとばかり思い込んでいたが、刑事の敬礼はそれとは違い、体の上体を15度ほど傾け軽く会釈をするようなのだと教えていただいた。この動きを合図に合わせてテキパキとキレ味鋭く、皆と合わせるのが我々の見せ所。果たして実際はどのように映っているか楽しみでもあり、不安もあるところだ。



シーンその2【漁港】

- 撮影日 8月某日
- 撮影場所 蒲郡市内某所
- 時間 7時30分集合 18時30分終了（弁当付）
- 役柄 県職員
- 持ち物 スーツ、白系Yシャツ、黒革靴、時計、ビジネスバッグ

てっきり刑事役のみと聞いていたが、別日にもう一度出てみないかと打診される。決して刑事役の出来を評価されてのオファーではなく、単なる人手不足らしい。今度は映画の中でも重要なシーンと聞いてしまえば答えは一つ。「ぜひ、お願いしますっ！」また超有名実力派俳優さんと共に演じできる、とは勘違いもいいところだが、今回は県職員として出演できることになった。このシーンにはヤジ役、漁師、ヤンキー、観客、そして県職員とバラエティ豊かな役割が用意され、エキストラだけで総勢50名ほどの大所帯となることが募集要項に掲載されていた。正直なところこれだけの情報では一体どんなシーンの撮影になるのか想像もできないまま、本番当日を迎えることになる。

ここでこのシーンも事細かにお伝えしたいところだが、ネタバレに繋がってしまうので控えさせて欲しい。唯一言えるとすれば、このシーンの最後で超有名実力派俳優さんが派手にやらかしてしまうこと。漁港ならではの激しいやらかしちゃぶりは必見の価値アリ！ぜひ映画館で確認していただきたい。撮り直しが素人目にみても非常に難しいシーンだ

けに、今回の撮影の一番の見せ場だったが、さすがは日本を代表する国民的俳優。見事にこの重要なシーンを一発で決めた時は自然とまわりから拍手が沸き起こった。この時の超有名実力派俳優さんの照れ臭そうにはにかんだ表情が今でも忘れられない。淡々と自分の責務を全うする、まさにこの言葉がよく似合う。ますますファンになってしまった。

この日の撮影は早朝から夕方までほぼ丸一日がかり。正直なところ、我ら県職員の演技はたまに拍手をしたり、ひたすらパイプ椅子に座り続けること。同じ姿勢で座っているだけだが、さすがに午後からは腰や足に疲労が溜まって体力的にもキツくなってきた。ただ超有名実力派俳優さんのラストの見せ場に向けて、すぐ間近でその一部始終を見られたことは大変貴重な体験となった。何度もリハーサルを繰り返し、数十秒のシーンのために役者さんはもちろん、監督はじめスタッフさんも納得いくまでひたすら映像を撮り続けていく。映画は通常2時間程度のものが多いが、今日のような作業を一回のくらいいの人達が、どのくらいの時間をかけて繰り返していくのだろうかと想像しただけで映画制作の凄さと奥深さの一端を垣間見る

ことができた。日常では決して味わうことのできない緊張感と大物俳優さんを超間近で感じたり見られるエキストラならではの優越感。この日以来、ちょっと変わったことがある。「あの人たち、多分エキストラだよな。なんかぎこちないもん」今まで決して気に入らなかった部分に自然と目が行くようになった。こんなエキストラ目線でドラマや映画を見てみるのも意外と面白い。「エキストラ出演」こんなお誘いがあった時には、ぜひ一度チャレンジしてみるのはいかがでしょうか。新たな発見や出会いがあるかもしれません。



シーンその1【県警本部・捜査第一課】

- 撮影日 8月某日
- 撮影場所 蒲郡市内某所
- 時間 8時集合 11時30分終了（弁当付）
- 役柄 捜査第一課の刑事（エリート）
- 持ち物 スーツ、Yシャツ、黒革靴、ベルト、ビジネスソックス、ビジネスバッグ、ポロシャツ（シャツ、ポロシャツはそれぞれ複数パターン持参）



以上のような募集要項を手にいざ撮影現場へ。ポロシャツは必要ないだろうと思いつつも心配性かつ真面目なOK内。大慌てで前日の晩、帰宅時にトライアルで2枚購入するが、案の定杞憂に終わることは言うまでもない。一番安いヤツにしておいて大正解っ！この理由は後ほど判明する。さてエキストラ用の控室には同じ役柄のライバル刑事さんが10名ほど。さらに女性の刑事さん役が2名、女性事務員さん役が2名、総勢14～15名の布陣だ。女性の事務員役の方に助監督さんが「7号が着れますか？」と尋ねてお

り「絶対ムリっ！」とドン引きされていた。確かに要項にもこの条件は書いてあったが、聞くところによれば7号とは相当細いサイズらしい。なにゆえそこまで7号にこだわるのか、ちょっと気になった。

さて、エキストラさんが全員集合したところで助監督さんやスタッフさんに着ている服や持ってきた服を確認いただく。そのままでOKの人もいれば、先方で用意した衣装を着るように指示される人も。そしてOK内への指示はヨレヨレのカジュアルルシャツ。「コレかあ～(泣)」泣き顔替えると、スタッフさんもその姿

を見て「う～ん」と困惑の様子。どうもしっくりこないらしい。自分も同意見だ。「コレ着てみますか」と次に渡されたのが、これまた渋い色のおじん臭いベストのようなもの。しかもサイズがMときてる。「ちょっと小さくねえ？」と思いつつ、着てみると、「オーッ、いいですねえ」と監督さん。マジっすか、とリアルに突っ込みたくなるのを我慢する。どうみてもエリート刑事からはほど遠い「釣り人」にしか見えないはず(笑)。映像的にはこんな格好の刑事も必要なんだろなとムリくり自分自身を納得させた。

ミデコラム

今月のにわか編集長
大河内和幸

にわか編集長とは？！

ishin-denshin の編集長は持ち回り制。特集ページの執筆や、みんなのコラムにコメントをつけたり小コーナーの原稿をまとめるのが主な仕事です。

ミデコ社員ひとりひとりが、それぞれの個性を活かしたコラムを掲載！



第112回

超時短 だんだん待てない性格に…

ヤフオク歴20年近くの自称ベテランですが、ここ最近圧倒的に取引スピードが早くなっているように感じます。基本的なシステムはあまり変わっていないのですが、落札してからの連絡、入金、出荷、着荷、評価までのスパンがかなり短くなりました。取引によっては落札してから30分以内に出荷まで完了することも珍しくありません。今はコンビニで発送伝票書かずにファミポートなどの端末でQRコードを読み取ってもらえば、そのまま自動的に伝票が作成されます。手間もかからず即出荷できます。

過去のヤフオクはというと、落札まではあまり差はありませんが、まず連絡、送料確定(ここは一緒)、振込先の口座を提示し、入金を待ちます。金融機関の営業日や入金が反映されるまでに時間がかかるので、すぐに入金確認できません。

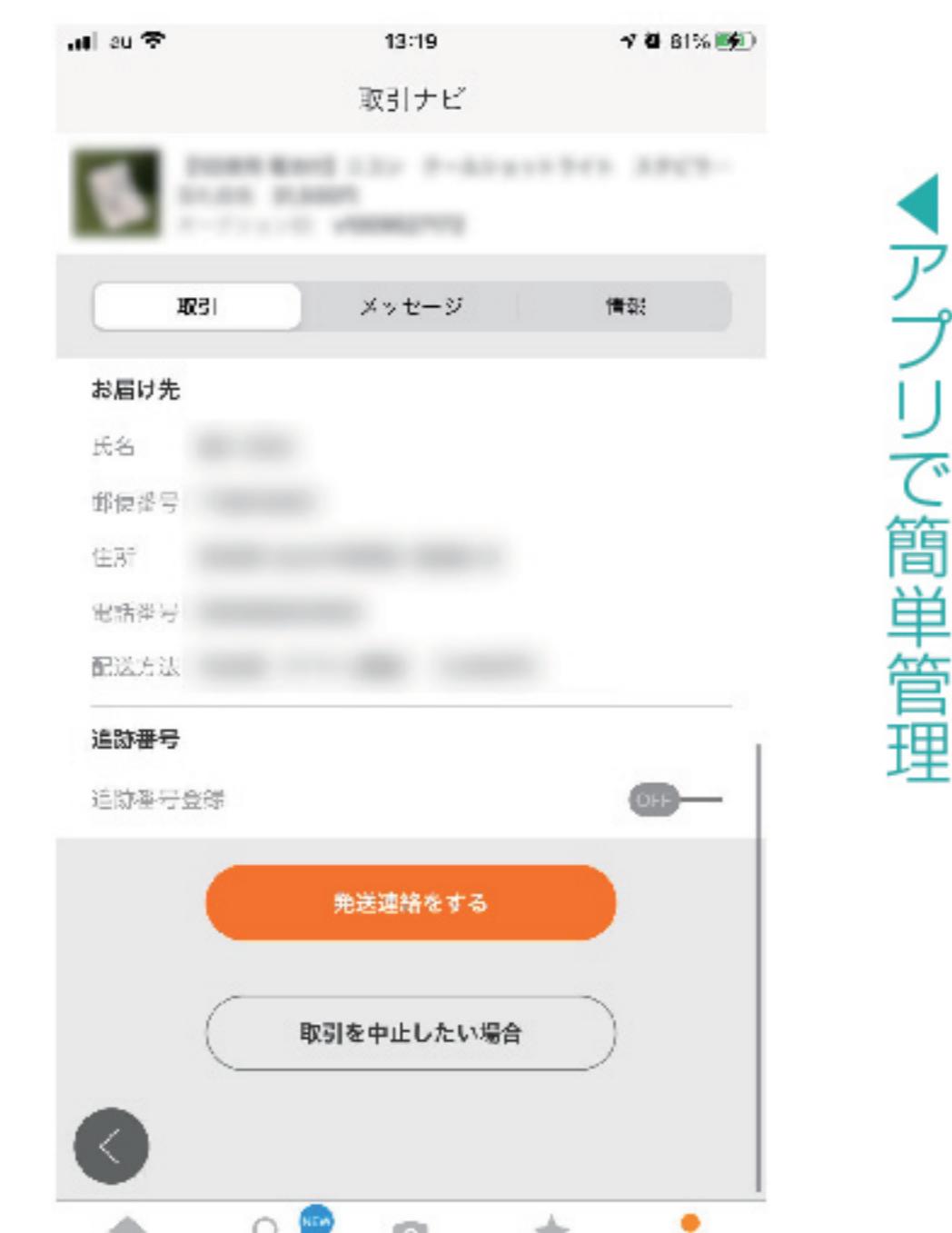
そして、銀行の営業時間内に自分の通帳の出納記録を見て入金を確認します。その後ようやく発送できるのです。発送は昔ながらの伝票書きなので、けっこう面倒だったりします。当時は早くてもこのようなスケジュール感です。落札→翌日振込→2日後入金確認→発送。発送までに2~3日かかるのは当たり前で、相手によっては一週間以上かかることもありました。今は2、3日で発送完了ではなく、商品が届くとい

う感じで、早ければ落札から2日で着荷・評価まで完了します。かなり時短になりました。

ヤフオクのシステムが改善されるたびに取引にスピードが求められるように思いますので、出品数が多いとなかなか骨が折れます。大半の通販は注文して翌日に届くのが当たり前なので、相手に不信感を与えないためにも迅速に動かざるをえません。時短なようで、時間がない、趣味としてゆとりをもってやるにはスピードが早すぎる気もします。かといって今更ゆっくりやろうとしても、相手のイラライを想像すると、超迅速に動いてしまうと思いますね。

時短ということではヤフオクに限らず、最近はどうにもテレビが苦手になってきまして、というのも普段テレビは見ず、オンライン配信の動画しかほぼ視聴しません。なのでテレビのCMが超絶苦手になってきました、脳内でスキップボタンを連打しています。要は待てないんです。最近のテレビってやたらCMが多くなってきたような気もします。オンライン動画でもCMは入りますが、YouTubeはプレミアム会員なので、広告は出ないようにしてますし、映画鑑賞も途中途中に宣伝が入るようなものは見ないです。そもそもテレビで映画を流す際に途中でCM流すのってちょっと無粋な気もします。トイレ休憩のタイミングにもなるので、良いっちゃ良いのかもしれません。。。映画に没入したいときは邪魔でしかないですね。しかもCM入れることで尺を調整しないといけないので、適当なシーンがカットされますし。作り手から見たときにどうなのかと思うこともあります。(カットする箇所は誰が決めているのでしょうかね)

もう一つ言うと、写真。子どもの頃はまだまだデジカメなんて普及していないくつ



て、フィルムカメラで撮影していました。フィルムカメラは撮影後すぐに写真を見ることは当然できず現像しないといけません。だから、写真屋さんに持って行ってちゃんと撮れているか、ワクワクドキドキしながら待っていたものです。撮影枚数も限られているので、1枚1枚、まさに入魂の想いで気合を入れて撮ってました。それが一気にデジカメが普及し、今ではスマホで高画質な写真が撮影できようになり、写真もやたらめったら撮りまくるし、撮影写真をすぐに確認しないと安心できません。純粋に写真を楽しめていたのは昔かな~と思います。今は簡単に撮れすぎてアングルを考えるというよりはとりあえずいろいろな角度で撮りまくって、データを仕分けすれば良いやと思っています。

自分に限らず現代人は「待つ」ということが苦手な人が少なくないような気がします。あえて待つことを楽しむ過去のアナログな道具たちに回帰するのも良いかもしれません。Z世代に使い捨てカメラ(レンズ付きフィルム)が流行っているのもこういうことからなんでしょうかね。これから先は「待つ」という行為自体がコンテンツになるかも。

きおく画伯

第63回

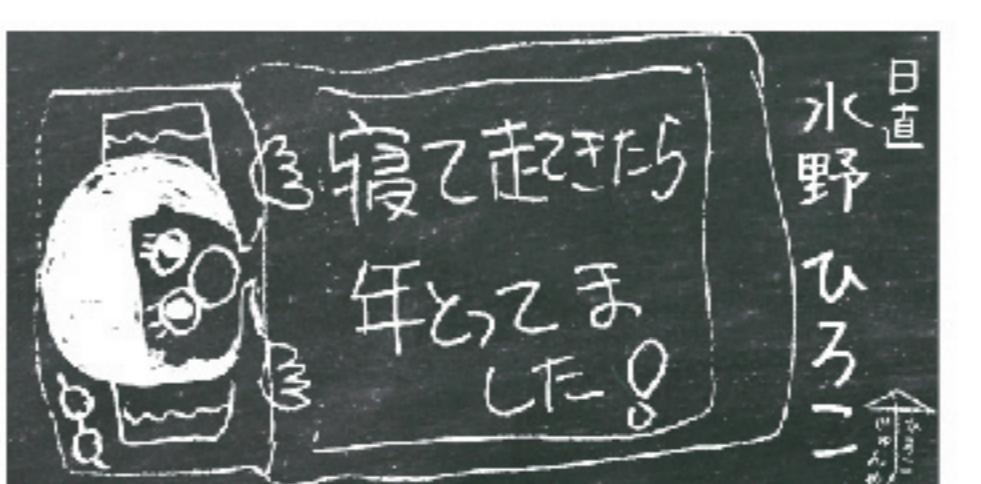
お題 スリーポリンキーズ

描いた人 前田さん

「一人しかわからない」と言いながら、バラエティ豊かな3人を描いてくれました。似てるかどうかはさておき…わかる！！

にわか編集長コメント

つい先日、何を思ったのか急に気になりましたのが「松井ホームランカード」。巨人軍入団からメジャーに渡り、現役を引退するまで松井秀喜さんがホームランを打つごとに日本テレビから発行されていたカードだ。松井ファンならたまらない一品。確かに興味本位で記念すべき第1号カードを入手したはずと思い、実家と自宅を大捜索。ようやく第1号を含め、幸運にも計6~7枚のカードを発見した。もう30年近く前の宝だ。早速ヤフオクで相場を確認するも、この程度の枚数ではほぼ価値はゼロ。世紀の大発見とはいわず…。やはり自分で大事にしまっておくのが一番ということで、だんだんモノが溢れていくのですねっ！



第111回

電話機

オレオレ詐欺がまだまだなくならないというか逆に巧妙になって増えているのではないかと考えた私たち姉妹は、電話機を防犯対策が優れたものに買えるのを母に提案。姉は「固定電話やめちゃえばいい」というオレオレに対する最終兵器の案を出してきたが、母の年代になるとやはり固定電話に電話してくる人が多い。新しい電話に変えることに母はすんなりオッケーとお金をだし、私がネットで購入することにした。新しく購入した電話は、登録した電話には緑のランプが光り、名前を読み上げてくれ

る。登録されていない番号には赤いランプが光り、とりあえず留守電になるのである。私の自宅に電話が配達されるようにし、母親がオレオレに騙されませんようにと念じながら、母から預かった電話帳を新しい電話機に登録した。これで安心というわけにはいかないかもだが対策しないよりはましだろう。

電話機を注文するときに母は一人暮らしなので電話機は一台でいい、だから子機なしのものでいいよなっと思った。親機だけのものを探すと親機だけのもののはうがなぜか値段が高い。どうしてだろうよくよく見てみると親機だけのものはコードレスになっていて受話器が持ち運べるようになっていたのだ。子機はいらないが値段を見て子機一台付きを購入した。

全然別の話だが私が青春していた頃は、携帯電話などなく、家の固定電話が唯一の連絡手段であった。それも子機なんてももコードレスの受話器もなく家族が揃っている居間に黒く光っている固定電話が。家族に聞かれたくない話も聞かれたし、長電話すると背中から「いつまで話してるの」と相手に聞こえるような声で怒られたりしました。

今は、固定電話でもみんなそれぞれ、部屋に持っていて誰にもじやまされず話す時代になったんだよなあと電話機を購入することで改めて思ったのである。

にわか編集長コメント

自分の実家にもどこでどう調べたのか、「アンタの名前でオレオレ詐欺の電話がかかってきたよ」と母親から何度も聞いたことがある。どうやら自分の偽者がいるらしい。「えっ！ どうした」と聞くと、涼しい顔で「そんなもん、すぐ切ってやったわ！」となるんだかたくましい。そもそも助けてあげら

れるような大金を持ち合わせていないのが本音のようだが(笑)。一方、父親は基本的に1回目の電話には絶対に出ず、続けて2回目が鳴ると渋々電話に出るというマイルールを持ち合わせているらしい。というわけで、我が家は当分安心のようありますっ！



第111回

充電月間

次男、後期生徒会執行役員選出馬を決意。思えば中学入学してからずっと歴代担任の先生から「生徒会やってみなよ」とありがたい助言をいただきながらも、生返事でごまかしてきた。なんが、ここにきて自分の実力に不安が出たのか「内申プラス採点つくかな…」とハラグロ計算が背中をおし、ついに『山、動く』って感じた。

そのくせ、会長じゃなくて執行役員ってどこがしゃらくさい…とのたまうと、「男女比率考えてみなよ、女子が会長に立候補したら男子に勝ち目はないんだよ。ここ数年の動きを見たらわかるでしょうが」とかえてきた…どんな学校だ。それを打ち破るカリスマ男子はいないのか！

確かに女子が多めな学校ではある。特に次男は、女子が男子の約2倍…というハーレム学年。思えば入学当初から、目立つ女子のパワーに男子が押されている…というイ

マドキな流れとしてなんとなく理解していたのだが、そんな物理的なからくりが潜んでいいようとは…

加えて、会長立候補一択で、得票順に副会長、書記、会計、執行委員…と割り当てられていた私の時代と違い、それぞれの役職に立候補し、落選したらそのまま生徒会には入れない…というシステムらしい。嫌だつて泣いて頼んだのに、むりくり立候補枠をあてがわれた過去を持つ自分としては、今の制度のが全然ウェルカムだなあ(遠い目)。他の候補者が「私が会長になったら…」とお決まりの演説をする中、「会長さん、副会長さんのフォローをがんばります!」って、やる気の無さ丸出しの熱弁して抵抗したなあ私…若かったわ。で、結果は自民党総裁選の翌々日にわかる予定。どうなってるでしょうか!

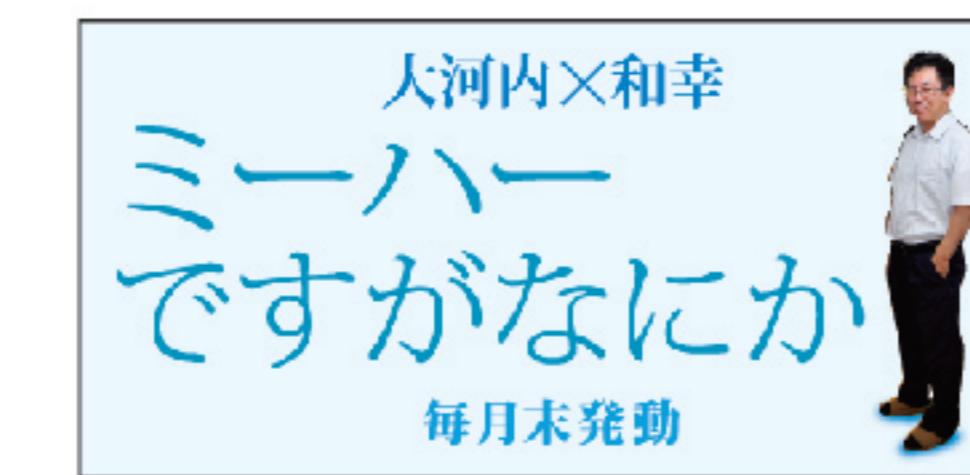
さてさて今月の蹴球小僧は兄弟揃っておとなしめ。兄は長らく続いたオフがや…つと動き出し、最近は地獄の「(走りが)規定タイム内に入らないと練習参加できない」シリーズに突入した。弟もさすがに今回の緊急事態宣言下はいつもより厳しく、平日の練習も一日少くなり、各学年少しすづらしての厳戒態勢。加えてワクチン接種もあり、比較的のびのびと仕事させてもらえた私。…このままでもいいのにな(小声)また急いで帰って急いで夕飯の支度して、駅まで送って…考えただけで白髪が増えそうじゃ。

そして10月からは、溜まりに溜まった県リーグががっしがっしと入ってきてている。長男もぼつぼつリーグ&ゲームが再開していけるのではなかろうか。これは…今年の年末は一段と駆け足で過ぎ去っていきそう…。

にわか編集長コメント

自民党総裁選は岸田さんが見事、主演の座を勝ち取ったわけですが、次男クンの結果も気になりますね~。ぜひ朗報を聞きたいものです。確かにお嬢の通う小学校でも

児童会長的な役割の子は女の子だったような気が…。自分たちの時代とは随分と様相が変わってしまい、もう付いていけないです(泣)。それでも理由はどうあれ役員選出馬を決意しただけでもたいしたものです。会長を支える影武者というのも今どきでカッコイイかも。ぜひ、校内改革目指して一旗揚げてもらいましょう、ってすっかり当選した気分になってしまいましたっ!



第112回

シリーズ最高の泣ける感動巨篇

すっかりステイホームが習慣化して自宅でテレビのお守りをすることが多くなった今日この頃。地上波やBS放送以外にも定額制の動画配信サービス(AmazonプライムビデオとHulu)を利用している。今回はHuluで目にした2018年1月公開の「祈りの幕が下りる時」をじっくり見てみた。見始めて数分後に流れてくるどこか懐かしいテーマ曲。思い出した。あの「新参者」だ。どうやらその劇場版であることを初めて理解する。「新参者」それは警視庁捜査一課から日本橋署に配属となった刑事・加賀恭一郎を主人公とした連続ドラマ(TBS系)で2010年4月にスタートした。主人公の加賀を演じるのは阿部寛大先生。彼は人の心を読む達人。嘘を見抜き、人の心の謎を解いていく。そんな加賀とバディを組むのは、警視庁捜査一課の刑事・松宮脩平(溝端淳平)。彼もこのドラマの重要なキーマンだ。原作は大人気作家・東野圭吾。現在10作品からなる加賀恭一郎シリーズは累計1200万部の超ベストセ

ラー。連続ドラマはたちまち大人気となり、高視聴率を連発。さらにスペシャルドラマ2本、映画1本と続き、シリーズの人気を確固たる地位にした。映像化されるたびに話題となる新参者シリーズの魅力は数え切れないほどある。まずは魅力的なキャラクター。主人公の加賀恭一郎は長身で真面目だが人情味に溢れ、どこか愛される刑事。さらに驚くような豪華俳優陣。主演の阿部寛からレギュラー陣に加え、各話ごとに登場するゲスト俳優陣も超豪華。そして最大の魅力は泣けるヒューマンミスティー。複雑に絡み合った心の糸を読み解き、事件解決へと導いていく。その温かいやり取りに誰もが皆、涙する。そして、その新参者シリーズがついにフィナーレを迎えた。なぜ加賀恭一郎は新参者になったのか、加賀恭一郎の過去に深く関わった最後の事件こそ映画「祈りの幕が下りる時」だ。

ただ残念ながら原作小説はもちろん、テレビシリーズ、スペシャルドラマもしっかりとは見ていない。果たしてこんな状態で本作品を楽しめるのか、理解できるのか心配であったが、十分楽しむことができた。東京のあるアパートで発見された絞殺死体。被害者の身元は滋賀県在住の女性。殺害現場となったアパートの住人も行方不明となっていた。やがて捜査線上に浮かび上がる美しき舞台演出家(松嶋菜々子)。しかし彼女には確かなアリバイがあり、捜査は難航する。加賀の従弟である松宮脩平は捜査を進めるうちに、現場の慰留品であるカレンダーに日本橋を囲む12の橋の名が書き込まれていることを発見する。その事実を知った加賀恭一郎は激しく動搖。それは幼き頃失踪した加賀の母に繋がっており、加賀恭一郎「最大の謎」がついに明らかになっていく。

本作品で重要な役どころを演じる女優陣も豪華。松嶋菜々子はじめ、加賀の失踪した母親を演じた伊藤蘭、脇役で登場する烏丸せつこや中島ひろ子など素晴らしい

演技を見せてくれた。が、それ以上に今回の見どころは松嶋菜々子演じる舞台演出家・浅居博美の父親を見事に演じた小日向文世の名演技に尽きるのではないか。一見頼りなさそうだが、実は芯の通った意思の強い父親像を見せてくれた。14歳の多感な時期の娘に慕われる父親から始まり、その年齢の移り変わりに合わせた外見の変化も違和感なく受け入れることができた。娘への確かな愛情と誠実な人柄、そしてこの親子の絆の深さ故の行動が悲劇をよび、観る者すべてを魅了していく。あまりにも重い父親としての決意で娘を説得し、トンネルの中を走り去っていくシーン。普段、運動などしたことのないであろうその走り方と深すぎる愛を背負った父親の背中。涙無くして観ることができない印象に残るシーンの一つだ。あまりに過酷な仕事と孤独な生活を選んだ父。その仕事により次第に健康を害していくその姿は小日向文世大先生ならではの名演技。紛れもない本作の影の主役と言ってもいいだろう。さて、3年前の映画をどうして今回いきなり取り上げたのか。この謎はさすがの加賀恭一郎でもわかるまい(笑)。ここで大ヒント! 本作のキャッチコピーを思い出していただいたい。「事件の謎は俺。俺なのか」これがすべて。ぜひこの謎を解明してスッキリしていただきたい。

にわか編集長コメント

いよいよ映画「護られなかった者たちへ」が10月1日公開となります。実はこの作品でも刑事役を演じる阿部寛大先生。これまで番宣を何度も見ましたが、ぜひ一度劇場へ足を運んで見てみたい映画の一つです。殺人の容疑者を演じるのは主演の佐藤健。この男を追いかける刑事役が阿部ちゃんらしいのだが、決定的な証拠をつかめぬまま、第3の事件が起きようとしている…という

のが大筋のストーリー。この事件の裏に隠された、切なくも悲しい衝撃の事実とは一体…。もう気になってしまふ。特等席をゲットして岡崎イオンのシネマ館へゴー!

一に日々く道

水野 順也

第112回

リスク & リターン②

図の中で何を選択したいかと問えば、ほとんどの人は①ローリスク&ハイリターンを選択するであろう。

夢の利息收入で生きる! そんな虫のいいことなんて夢の世界だ。しかし最近は若い時期に1億円を貯めて利息を生活基盤に人生を楽しむ「FIRE」なんて概念もあるようだ。何も働かずしてお金が得られることを差しているのではない。実は普段の生活の大半を占める“働く”ってことなのだ。

そもそも“働く”っていうことにはリス

ハイリスク	ローリスク
×	×
ローリターン	ハイリターン
②	①
④	②
ローリスク	ハイリスク
×	×
ローリターン	ハイリターン

クなんかないである。つまりノーリスクなのだ。その上、働く対価としての報酬は

発生するし、保険や退職金まで保証されている。自分の成長や仲間づくり、感謝もされればやり甲斐も得られる可能性がある。前段で“得られる可能性がある”ということだが、実は全て自分でコントロールできることなのだ。自分の報酬のために、成長のために、人のために、そして自分の満足のために。全て自分でコントロールできることである。もちろんチャレンジできるし、やめることもできる。

某TVCMで「リスクを冒さないことが最大のリスクだ」「ぐさっ」というくだりがある。そのリスクをチャレンジに置き換えても何らおかしくない。「チャレンジをしないことが最大のリスクだ!」

要はチャレンジしないとリターンもない。ということである。

にわか編集長コメント

将来に備えるために資産運用を始めようと思っても正直なところ、種類も多いしどれを選べばよいのかまったくわからない。少額で始めができるリスクの少ないものからハイリスクなものまで、いろいろと勉強してみる価値もありそうです。ただ、アレコレ考えてみたところで肝心の原資が無ければ絵に描いた餅。水野社長の言う通り、働く意味をしっかりとと考え、ノーリスクなんだらいろいろなことに思い切ってやってみようよ! というエールと捉え、まずは原資を蓄えるためにも日々精進していきたいですねっ!



ボートレース蒲郡には、小学生の頃に家族でフリーマーケットに出店して以来の潜入です。遠い記憶にある「競艇場」とは全く違う、まるで空港のようなとっても明るくキレイな雰囲気。平日のお昼でしたが、それなりに人もいてなかなか楽しげな様子です。

フードコートには、地魚のうどんや丼など、蒲郡らしいメニューもずらり。その一角にある海魅浪漫さ

屋さんでは、深海魚で作った魚醤で味付けされた「深海味ラーメン」がいただけます。醤油味と味噌味がありましたが、今回は3人揃って醤油味をオーダー。ほのかに海老の風味も感じられ(るハズ)、潮の香薫る美味しいラーメンがいただきました^ ^

(文:足立)

レッツコミュニケーション!
今月のお題
ギネス記録に挑戦
するとしたら…
(架空のチャレンジでもOK)





にわか編集長 コメント

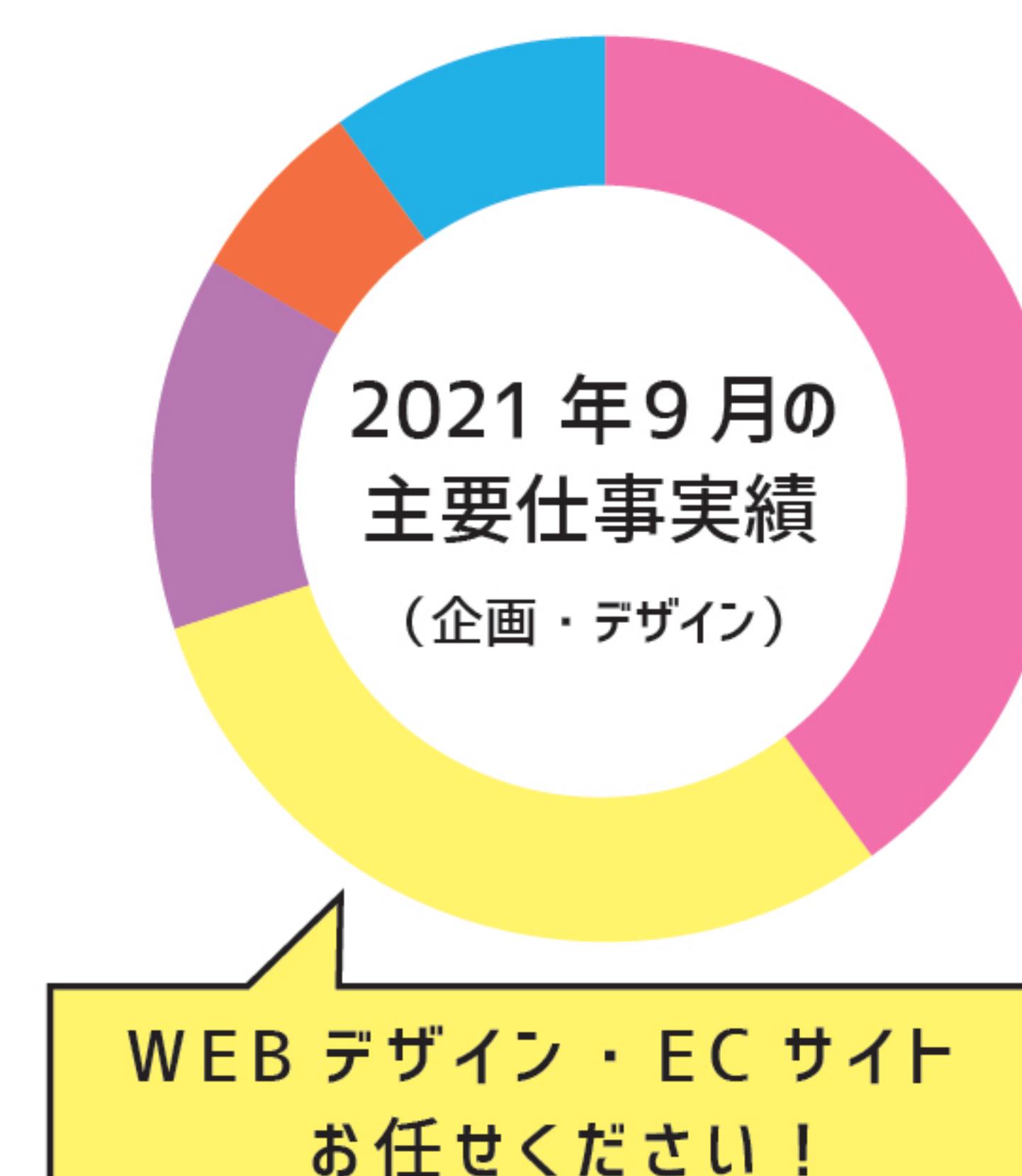
能舞台に併設された素敵なカフェでなんだか落ち着けそうですね。汽水域というとすぐに「浜名湖」を連想しましたが、オーナーさんの想いを聞くと納得、素晴らしい！ところでパンケーキと言えば、「パンケーキ食べたい！」を繰り返し歌いながら、「○○は汚い！」、「○○は地獄！」とディスっている芸人さんがいましたけど、最近まったく見なくなりました。一体どこへ行つてしまつたんでしょう？でもあの甲高いクセになるフレーズは今でも耳に残って、ついつい口ずさみたくなります。そういう意味ではひょっとしたら「パンケーキを見たら思い出す芸人」としていつまでも記憶に残るスゴイ芸人なのかもっ！

今月の 八百万百景

穏やかな海と
御神燈（竹島）

撮影者：山本兼佑

竹島周辺の御神燈。海とのコントラストで竹島を訪れる度に飽きずに撮ってしまいます。全国的にもレアな光景かも。



今月の にわか編集長 編集後記も持ち回り制！

「岸田文雄の特技は人の話をしっかりと聞くということあります」と声も高らかに第一声を発した岸田さんが自民党の新総裁に選ばれた。党四役人事も決定し、近々「岸田内閣」も発足する見通しだ。ただ安倍前首相や麻生氏たちの「聞く力」はあっても、国民や野党の声を「聞く耳」は持っていないという厳しいお声もチラホラ。私どもがこれから目指していく方向性においてもお客様とのヒアリングは最も重要な業務の一つ。何を望んでいるのか、どのようにしていきたいのか、本心は何かなど「聞く力」はもちろん「聞く耳」も合わせ持つことが大事だと思う今日この頃であります。

大河内 和幸